

登録コード	L2720300	開講年度	2026				
担当教員	鈴木 裕也			副担当			
授業科目	日本語史						
英文授業名	Historical Linguistics of Japanese						
授業タイトル	日本語史（上代、中古）						
単位数	2	対象学生	1～4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			日本語学（日本語史）の基本的事項について理解することで、日本語について疑問や関心を持ち、日本語の分析方法を修得することができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	日本語学とは、日本語を研究する学問である。現代日本語を考える上でも、過去の日本語と比較する視点 は欠かすことができない。本授業は、日本語史（日本語の歴史）の基本的事項を概説することを目的とす る。「日本語史」では、上代・中古（奈良時代から平安時代）を対象とする。						
授業計画	第1回 ガイダンス、時代区分 第2回 漢字の伝来 第3回 万葉仮名 第4回 上代特殊仮名遣（音韻） 第5回 上代特殊仮名遣（文法） 第6回 講読（上代語資料） 第7回 仮名 第8回 頭音法則、音便 第9回 八行転呼音 第10回 濁音、連濁 第11回 講読（和文資料） 第12回 日本漢字音 第13回 和漢の混淆（文体） 第14回 いろはうた、五十音図 第15回 講読（訓点資料）、授業アンケート 期末試験						
成績評価の方法	期末試験により評価する（100％）。期末試験は論述式で行い、日本語学（日本語史）の基本的事項を理 解し、説明できるかどうかを評価の基準とする（持ち込み不可）。						
成績評価の基準	日本語学（日本語史）の重要事項を最低限理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語学（日本語史）の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語学（日本語史）の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語学（日本語史）の全体を理解し自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越してい る）」 上記に至らないものは「不可」						
事前事後学習の内容	各回で取り扱った内容で理解できなかった部分・興味を持った部分について、参考書・各回の資料に挙げ る参考文献を読む。日本語学に興味を持っている方は、以下の参考書を一読することを推奨する。期末試 験前は、授業資料や参考書などで日本語学の基本的事項を復習する。						
履修上の注意	高等学校までで学ぶ文法事項を復習し、理解しておく。不安な方は高等学校で用いていた文法書を持参 するとよい。 「日本語学概論」「日本語史」を合わせて履修することを推奨する。日本語学の内容は難解なも のが多いので、合わせて履修することで理解が深まる。「日本語史」は「日本語史」と連続する内容 である。						
質問、相談への対応	質問・相談用のformsにて受け付ける（URLはeALPSに掲載する）。						
教科書	指定しない。						
参考書	購入は必須ではない。 衣畑智秀（編）2023『基礎日本語学（第2版）』（ひつじ書房）9784823411953、1800円 木田章義（編）2013『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社）9784790715962、2900円 風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健2004『言語学（第2版）』（東京大学出版会）9784130820097、 2500円 佐藤武義（編）1995『概説日本語の歴史』（朝倉書店）9784254510195、2900円 野村剛史2010『話し言葉の日本史』（吉川弘文館）9784642057110、1870円						